

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	9-5-2	大学生・市民がスクラムを組んで取組む「ラグビータウン熊谷」の活性化支援	熊谷市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	タンブラーから熊谷を元気に！		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	くまたん！		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	<b>3</b>	
メンバー数（公開）	4 名		
代表者（公開）	福永 裕子		
メンバー（公開）	関 琉生誠      島袋 朱里      中村 果矢		

#### **【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

**アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認**

○

**(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。**

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

#### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

- ・ラグビー選手とデザインを創る、という体験を通してラグビーに興味を持ってもらいたい！
- ・オリジナルタンブラーで水分補給を積極的に行ってほしい！

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

#### 「タンブラーのデザインを考える」アイデア

「子どもたちとラグビー選手が」

「イベントやワークショップで」

「一緒にデザインを考えて」

ラグビーへの親近感の向上と水分補給対策を目指す

--

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

### 【熊谷市とラグビーの関係性について】

2019 年、ラグビーワールドカップが日本で開催され、12 開催都市の 1 つとして埼玉県熊谷市の熊谷ラグビー場も白熱の 6 試合が繰り広げられたのだ。

これに伴い、熊谷市ではラグビータウン熊谷のスローガンとして、ラグビー用語の「スクラム（フォワードの選手 8 人同士が押し合うこと）」と「クマガヤ」を掛け合わせた「スクラム！クマガヤ」が宣言された。

また、ラグビータウン推進課が熊谷市の総合政策部に新設されるなど、ラグビーによる地域振興が進められてきた。2021 年 9 月にはラグビー・トップリーグのラグビーチームである「埼玉パナソニックワイルドナイツ」の本拠地が熊谷市に移転され、熊谷市は「ラグビータウン熊谷」としてより一層の地域振興が期待されているのが現状である。

### 【熊谷市のラグビー人気について】

一方で、わが国ではラグビーというスポーツが未だに国民へと浸透していない現状がある。

2019 年 4 月に行われた「第 27 回人気スポーツ調査」（一般社団法人中央調査社）によると、日本開催である 2019 年ラグビーワールドカップの認知度は 67.9%と過半数を超えていたが、一方でラグビーワールドカップへの関心度についての調査では「関心あり」と答えた人は全体の 37.2%に留まった。

更に、2021年2月に行われた「まちづくり市民アンケート」（熊谷市総合政策部企画課）によると、「熊谷の宝として全国に発信できると考えるものはありますか。」とのアンケート調査において、ラグビー関係の回答数は回答者数3000人中、延べ67件と非常に少なく、更に前年度の回答数99件からも減少してしまっているのだ。

以上の観点から、ラグビーによる地域振興を図るためには、まずはラグビーに興味がない層の人々に興味を持ってもらう必要があると考え、どんなことをすれば気軽に、また楽しみながらラグビーに関心を抱いてもらえるかに重点を置いた。次に、熊谷市で実施する意義を持たせたいと考え、できれば暑さが厳しい本市の気候を利用したいと考えた。

そこで、ラグビーによる地域振興を熱中症予防の一部に取り込める可能性はないかと検討したところ、水分補給を行えるオリジナルタンブラーの作成が簡単かつ楽しく、熱中症予防になるという結論に至ったのである。

子ども達の中には、ラグビーを怖いもの、スポーツが得意じゃないとできないもの、未知の存在、と感じている子どもも多いだろう。そこで「ラグビー選手と一緒にデザインを考える」という、ものづくり体験を通して、まずは自分たちの市で活動しているラグビー選手に興味を持ってもらいたいと考えた。共に何かを作り上げた人に対しては親近感がわくことから、その選手が普段どのようなプレーをしているのかといったような、ラグビーというスポーツへの関心に繋がっていったら良いと考えている。



**(3) アイデア実現までの流れ（公開）**

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体：市、ラグビー関係団体、・・・+α

2. 実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)

ヒト；ラグビー選手(1人～)、子どもを見守る人、説明等行う人

モノ；タンブラー(最安：150円)、印刷機(必要に応じて)、マーカー・絵の具・クレヨン等、紙+α；タブレット端末(希望があれば)、シール・折り紙等

カネ；部屋もしくはスペース代、タンブラー代、マーカー等文具代

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

<1～2ヶ月目>

- ・給水スポットのデータ入手し、Glideを用いて整理、QRコード化。
- ・ラグビー選手または関係者と相談し、日程をすり合わせる。
- ・市などと、どのようなイベントとして行うのか、規模はどの程度にするのか等を決める。

<2～3ヶ月目>

- ・場所(お祭りの時にテントなどを張ってやるのか、部屋をかりて行うのか等)を決めて、押さえる。
- ・必要な物資(タンブラーや文房具など)を手配する。
- ・ポスターを作成し、告知を行う。